

2021年10月10日（日）主日朝礼拝説教

『力の秘密』井上隆晶牧師
士師記 16章 16～22節、使徒言行録 4章 7～13節

①【サムソンの力の秘密】

旧約聖書の時代、イスラエルがペリシテ人に支配されていたころのお話です。イスラエルの12部族の一つであるダン族にサムソンという士師（しし）がいました。士師というのは指導者のことです。彼は母親の胎内にいる時から、神にささげられ、聖別された人でした。そのような人の事を「ナジル人」と呼びます。神の働きをするために生まれる前から選ばれ、ある種の力が与えられている人です。キリスト教でいう聖人と同じです。彼らも自分の努力で聖人になるのではありません。ある人は神学者になり、ある人は伝道師や宣教師になり、ある人は偉大な業を行い、ある人は修道士になり、ある人は殉教する定めをもって生まれてきます。「ナジル人」には髪の毛に刃物を当ててはならないという決まりがありました。洗礼者ヨハネもイエス様も「ナジル人」だと思われていたので髪の毛が長く描かれています。生まれた時から髪を切らないので、サムソンの髪の毛は長く、編み込んで七つの束にしていたとあります。町の門柱と扉を引き抜いて肩に担いだり、素手でライオンを引き裂いたり、敵であるペリシテ人1000人をロバのあご骨一つでやっつけてしまうほどの怪力とパワーを持っていました。「サムソンとデリラ」という名前の映画にもなりました。サムソンの役をしていたのはビクター・マチュアという人でした。

サムソンはデリラという女性を愛するようになりました。ペリシテ人はサムソンの力の秘密を知ろうとして、恋人のデリラを利用し「サムソンの力の秘密を聞きだしたら莫大な銀貨を上げよう」と約束をします。デリラはサムソンに「私を愛しているなら力の秘密を教えてください」と頼みますが、サムソンはその度に嘘を教えます。彼女が毎日泣いて頼むのでさすがのサムソンも参ってしまい、ついに力の秘密を打ち明けてしまいます。デリラの密告により、サムソンは寝ている間に髪の毛を剃られ力を失ってしまいます。目を覚ましたサムソンはいつものように暴れようとしてますが力が出ません。「主が彼を離れられたことには気づいていなかった。」(16:20)と聖書には書かれています。髪の毛が無くなったから力を失ったというよりも、神様が彼を去ったから力を失ったのです。彼は捕えられ両眼をえぐり出されて、青銅の足かせをはめられ、牢屋の中で粉を引かされました。こうして何年も経つうちにサムソンの髪の毛もだんだん伸びてきました。ペリシテ人の神である魚の頭をしたダゴンの神の祭りがやってきました。大勢の人が神殿に集まり、サムソンは見世物にされるために引き出されます。彼は若者に頼み、神殿を支える二つの親柱の所に連れて行ってもらい、神様に祈りました。主はサムソンに力を与え、彼は二本の柱を両手で押し倒して神殿を倒壊させ、3000人以上のペリシテ人たちを殺し、自らも死んでしまうのです。

②【私たちクリスチャンの力の秘密】

サムソンの力の秘密は髪にありましたが、私たちクリスチャンの力の秘密はどこにあるのでしょうか。人間的に賢いとか、地位があるとか、お金があるとか、能力があるとかではありません。パウロは「あなたがたが召された時のことを思い起こしてみなさい。人間的に見て知恵のある者が多かったわけではなく、能力のある者や、家柄のよい者が多かったわけではありません。…」(Iコリント1:26)と書いています。それでも初代教会のクリスチャンたちはローマ帝国を相手にしてひるむことなく、信仰を守り通し、ついに帝国をひっくり返し国教にしまったのです。彼らの力の秘密であり、私たちクリスチャンの力の秘密は、まさにキリストにあります。

●榎本保郎牧師はこんなことを書いています。「キリスト者とはキリストの教えを守る者ではない。主キリストのような崇高な愛に生きようと努める者でもない。キリスト者とはキリストの生命に生かされる者である。…その意味において、サムソンが神によって生き、大力を持っていたことが人々に不思議であったように、キリスト者の生活もまた人々にとって不思議に思われるものである。…ところが、サムソンはその力の出所を知っていたが、それに対して慎重ではなかったように、私たちも自分の力について慎重を欠くことがある。何だかそれが自分の中にあるかのごとくに思い上がることがある。そしてどこまでも謙ってそれを求める熱心さを失いやすい。主が彼を離れ去られたとき、彼はまったくのただの人であったように、私たちも上からの賜物を受けなければまったくただの人である。」

サムソンは高慢になり、神に対する慎重さを欠きました。「主が彼を離れられたことには気づいていなかった。」という言葉は重いものです。神が去ったことに気づかないくらいに彼の信仰も眠っていたということです。あなたは気がついてますか？神が離れれば私たちは普通の人です。何もできません。神が離れたしるしは「不平不満、恐れ、いらだち、不信仰、心の分裂、喜びがないこと」です。そのしるしが現れたら、心して神に向かわなければなりません。礼拝を守り、神の言葉をしっかり聞き、祈りによって聖霊の力を呼び求めなければなりません。

悲しい出来事があつたり、人の口から出る不平不満などのマイナスの言葉をずっと聞いていたりしていると私たちはストレスが溜まり、心は重くなり、落ちてゆきます。人はもともと神と共に生き、神の像からキリストの似姿へと上昇してゆくように創られていました。しかし罪は私たちを「上」にではなく「下」へ向かわせます。まず自分を破壊し、隣人との関係を破壊し、やがて造られた土にまで返そうとします。「落ちてゆく」これが人間の姿です。罪に落ち、絶望に落ち、不信仰に落ち、死に(崩壊)落ちてゆきます。士師記を読んでいると、イスラエルの民が非道で残虐な行為をした話ばかりで神様が出てこない章があると、読んでいて気分が悪くなります。神がいないと、人はどこまでも落ちます。罪は私たちを神に向かわせず、この世に、人に向けさせようとします。そうすると必ず心はしんどくなるのです。

讚美歌 21 の 18 番に「心を高くあげよ」というのがあります。元々は聖餐式の前に唱える典礼文です。私たちの教会でも「心を高く上げなさい」「主に向かって上げています」と唱えます。高くあげよというのですから、心が落ちているということ。聖餐はキリストが私たちにして下さったことを思い出させ、私たちを高く上げる業です。

●先日心も落ちていたのですが、ある本の中の言葉に目が止まりました。

- ・「神の世界としての巨大な聖堂の中で、各人は学者であれ肉体労働者であれ、いずれの者もその生活のすべての局面で司祭として働くように呼びかけられている。…人に与えられたすべてを受け取り、それを栄光の献げ物、そして讚め歌に変えるために。」(パウル・エフドキモフ)
- ・「あなたは世界の中の世界である。あなた自身の内面を見てごらん。そうすれば、そこにすべての創造物があることに気づくだろう。外面を見ず、内面にあるものに目を向けなさい。魂の中にある…宝物庫の中にあなたの全精神を集めなさい。」(アンキラの聖ニルス)

それを読んでいるうちに私の心は見る見るうちに上昇し、羽ばたき、嬉しくなりました。この世界は神がお創りになった世界です。神様がおられる大聖堂なのです。大聖堂には柱が何本もあって、小聖堂もいくつもあって、どこにも小さなランプが釣ってあり、祈りが捧げられるようになっています。この世界は大聖堂です。神はこの世界におられます。また時計のゼンマイを巻いたら、後は自動的に動くのを見ている時計職人と違い、神は造られたものを治し、新しい創造をされています。創造は過去の出来事ではなく、現在から未来へと「新しい天と新しい地」を目指して続いています。昨日までがどんなに落ち込む日であっても、今朝は新しく創造された日です。新しい子供が生まれたように希望に溢れ、喜びに満ちた日であり、今日も神様はこの世界で働いておられます。

また自分の中に目を向ければ、私の中には神が創られた宝物庫があり、信仰という鍵で開くとキリストが現れます。私の中にキリストは住んでおられ、今日も働き、新しい創造をしてくださっています。先ほど言ったように、昨日までがどんなに落ち込む日であっても、今日も同じように落ち込むとは限らないのです。今日、キリストがあなたの中で新しいことを始められ、新しいものを創造されるからです。この世だけを見、この世の人だけを見ると落ち込みます。この世は変化し、希望を失わせる出来事でいっぱいだからです。この世に期待する人は必ず落ち込みます。しかし神に望みを置く人は新しい力を得、驚のように翼を広げ、空高く大聖堂の中を舞うことが出来るのです(イザヤ 40:31)。神を見なさい。そうすればあなたは力が湧いてきます。神の創造の力を信じなさい。そうすればあなたの中から新しいことが生まれます。神はあなたに新しいことをする力があります。「主を喜び祝うことこそ、あなたたちの力の源である。」(ネヘミヤ 8:10)とネヘミヤは言いました。主を喜ぶこと、これが私たちの力の秘密なのです。